

[5] 中央区南東部・天王寺区北部

- 61 **豊竹若太夫墓所**：若太夫は、はじめ竹本義太夫の弟子になったが元禄16年(1703) 23歳で独立し豊竹座を開いた。豊竹座は道頓堀の東に位置し、西にあった竹本座と人気を二分した。  
(中央区中寺二丁目1、本経寺)
- 62 **高津神社** (中央区高津一丁目)
- 63 **田中金峰墓所**：金峰は儒医の子として弘化元年(1844) 午の月、午の日、午の刻に生まれた。そうしたことから尋常の子ではないと噂された。病弱ではあったが、15歳から医者として診療にあたるとともに医学と儒学を教え、貧しい人のために施薬院もつくった。また、詩文にも優れ「大阪繁昌詩」の著作がある。しかし才子薄命、18歳で夭折した。  
(中央区中寺一丁目1、妙寿寺)
- 64 **近松門左衛門墓**：人形浄瑠璃や歌舞伎の台本作家としてあまりにも有名な近松についてはここで詳しく述べるまでもないが、狭い路地の奥にある墓前に花や供物の絶えることがないことで彼の偉大さを認識することができる。  
(中央区谷町8丁目1)
- 65 **井原西鶴・中井一族墓所**：近松とともに近世大阪を代表する文豪 西鶴についても墓の所在を記すにとどめる。当寺は懷徳堂を開いた中井鋸庵ら中井一族の墓所でもある。  
(中央区上本町西四丁目1、誓願寺)
- 66 **浪華仮病院跡**：明治元年(1868)の布告によると、大阪に本格的な医学専門教育施設と病院の設置を計画していた。教育施設の方は舎堂局ができたが、病院は財政難から同2年に大福寺で「仮病院」として開業した。院長は緒方洪庵の二男 惟準、主任教授はオランダ人のボードウィンであった。(天王寺区上本町四丁目1、大福寺)
- 67 **片山北海・入江昌喜墓所**：江戸時代中期の儒学者で詩文家 片山北海は、立売堀で私塾「孤雲館」を開き、木村蒹葭堂・中井竹山・頼春水(山陽の父)らと「混沌詩社」を結成、詩作に励んだ。入江昌喜は北海と同時代の町人学者。独学で国学を学び「万葉類集抄」などを残した。  
(天王寺区城南寺町5、梅松院)



### [3] 中央区西部

23 **淀屋の屋敷跡**：淀屋の初代常庵は中之島の開発に尽力し、二代常庵は米市場を開設するなど父子2代で巨万の富を築いた。その屋敷はこのあたりにあった。

(中央区北浜四丁目、淀屋橋南詰西側)



30 適塾

24 **松瀬青々生誕地**：この地に生まれた青々は幼くして詩歌を学び、その俳句は正岡子規に賞賛され、東京に出て一時期「ホトトギス」の編集に携わった。帰阪後は朝日新聞で「朝日俳壇」の選句を担当、大阪俳壇の基礎を築いた。(中央区北浜四丁目6)

25 **手形交換所発祥の地**：わが国最初の手形交換所が明治12年(1879)この地に開設された。(同上)

26 **帝国座跡**：「オッペケペー節」で知られる川上音二郎が、新派の拠点として明治43年(1910)に建てた大阪最初の純洋式劇場。(中央区北浜四丁目4-7)

27 **大阪商法会議所跡**：明治11年(1878)に設立された、大阪商工会議所の前身。(中央区高麗橋三丁目6)

28 **懐徳堂跡**：享保5年(1724)中井智庵らが創設した学問所で、武士から商家の雇い人まで身分の上下に関係なく学ぶことができ、山片蟠桃ら多くの町人学者を出した。(中央区今橋三丁目5)

29 **銅座の跡**：江戸時代の重要な輸出品で大阪がその中心であった銅の製造と流通を一元的に管理していた。(中央区今橋三丁目1-14、愛珠幼稚園前)

30 **適塾**：蘭学者 緒方洪庵が天保9年(1838)自宅に開いた塾で、大村益次郎・橋本左内・福沢諭吉など多彩な人物を輩出している。(中央区北浜三丁目3-8)

31 **大阪俵物会所跡**：江戸時代、海産物の干物類は俵詰めにして輸出していたことから俵物と呼ばれ、海外貿易の決済は一部俵物で行われた。そうした俵物の集荷を円滑にするため延保元年(1744)に会所が設置された。(中央区北浜二丁目2-15)

32 **大阪金相場会所跡**：江戸時代の通貨は、関西は銀、関東は金と異なっていたため、金・銀を相互に交換するためのレートが定められてはいたが、実際にはこの会所で立てられる相場が標準になっていた。(中央区北浜一丁目、大阪証券取引所玄関左)

33 **大阪会議開催の地**：明治8年(1875)、大久保利通は政府の体制を固めるため、反対の立場にあった木戸孝允や板垣退助を引き入れようと、伊藤博文や井上馨らとここで会議をもった。これが世に言う大阪会議である。(中央区北浜一丁目1-12)

34 **天五に平五 十兵衛横町**：江戸時代、経済の発展とともに今日の銀行的業務の必要性が生じ、両替商が生まれた。大阪では寛永5年(1628)に天王寺屋五兵衛が始めたのが最初といわれる。その天王寺屋五兵衛(天五)の向いに平野屋五兵衛(平五)が店を構えていたところから、五兵衛が二人で「十兵衛」横町と呼ばれた。(中央区今橋一丁目、開平小学校南西角)

35 **泊園書院跡**：江戸時代の大坂で、懐徳堂、適塾と並び称された私塾で、2万冊に余る蔵書は現在関西大学に泊園文庫として保存されている。(中央区淡路町一丁目5)

MEMO